

地域住宅生産者グループ

「次世代につなぐ家づくり」ネットワーク

地域型復興住宅の名称	対象となる地域
次世代につなぐ家	福島県全域

グループの特徴とメッセージ

震災後の避難所や仮設住宅での被災された方の生活を見聞きし、木造仮設住宅建設に関わるにつれ、家族や人と人とのつながりの大切さを痛感しました。

この家のテーマは『変化と自由』です。

- ① 命が生まれ、成長し老いていく、バラバラになった家族がいつか共に暮らせる、そんな家族の変化に対応できること。
- ② 生活者のさまざまな生活の仕方に自由に対応できること。

設計、工務店や地元の大工などの工事関係、木材の供給と製材、弁護士、司法書士、金融機関、保険関係など、住宅に関わる様々な業種による広範囲の連携によって、震災や原発事故によるさまざまな問題を抱えた方々が、『充実した生活を送ることができる家づくり』の手助けを行います。

グループの基本情報

グループ名称	「次世代につなぐ家づくり」ネットワーク
所在地	福島県福島市泉字清水内1
結成年月	2012年1月
グループ形態	任意団体
主たる業態	施工
グループ構成 ※各事業者名 は別紙	合計46社 原木供給 : 3社 製材 : 3社 建材流通 : 6社 プレカット : 3社 設計 : 4社 施工 : 11社 その他 : 16社
代表者名	佐藤工業株式会社 取締役社長 加藤真司
主な受賞歴・ 活動内容等	・「ふくしまの家」復興住宅 供給システムプロポーザ ル：二次審査8団体選出

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	木造軸組工法
価格帯	1,500万円
価格の基準面積	100㎡
価格に含まない 項目	屋外工事費、外構工事費、 設計料、諸手続費

*価格は、地域・プラン、仕様によって異なります。
詳しくはお問い合わせください。

グループ全体の施工実績（年間）

建設戸数*（木造戸建）	230戸
うち地域材活用の住宅	201戸
うち長期優良住宅	1戸
グループとしての 施工実績	なし
グループとしての地域 型住宅の受注可能戸数	年間300戸
自由記入欄 （上記以外の実績等）	住宅増改築工事施 工：67件、応急仮 設住宅施工551 件

※参画する施工業者の建設戸数の合計

連絡窓口

担当者名	松本光正	メール	m-matamoto@sato-kogyo.co.jp
電話番号	024-557-1166	FAX	024-558-8967
ホームページ	http://www.sato-kogyo.co.jp/		

地域型復興住宅のイメージと特徴

■自由な平面

ワンルーム空間の中央付近にコア（水回り+収納+廊下）を置くと、周囲にフリースペースができます。この入れ子状の平面は、周辺的环境や家族構成、ライフスタイルにあわせたフレキシブルな生活を可能にします。家具、カーテン、建具、壁というように仕切り方でプライバシーの高い空間もつくれ、将来にわたって多様な家族の変化に応じていきます。

■機能性

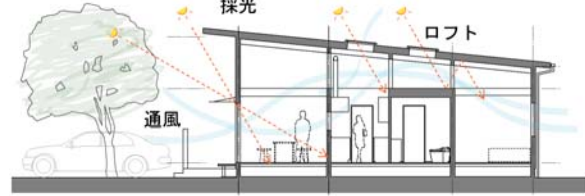
キッチン、浴室、便所などの水回りをまとめ、さらに収納と廊下をコンパクトに集約したコアがあることで、廊下のない機能的で合理的な住宅を実現。

■拡張性

高い天井はあらゆる場所がロフトとして増床可能。将来に備えたゆとりのスペースとして、収納、書斎、寝床としても利用できる拡張性を備えています。



平面のイメージ



断面のイメージ



土間タイプ
鉢植えやペットの飼育、日曜大工や自転車、薪ストーブなどの趣味の場所として、あるいは井戸端会議に使える大きな土間を設けています。



SOHO・アトリエタイプ
自宅で仕事をする人のための住宅。オフィスのようなスペースと打合せや待合人のための場所も確保。生活空間との兼用もできます。



個室充実タイプ
コアを中央に配置すると周囲に同じサイズのスペースが生まれます。それぞれのスペースが小さくならず個室のレイアウトも自由自在です。

代表的事例の概要

構造	木造軸組工法	床面積	1階：100 m ²
設計	有限会社阿部直人建築研究所	施工	佐藤工業株式会社
施工費	1,550 万円（税抜き）	備考	—

設計方法や地域材活用に関する特徴

■ 県内は会津と浜通りでは全く気候が違い、さらに都市部と農漁村部によっても求められる性能・価値観・間取りは全く異なるものになります。そこで基本的な機能を確保した上で、生活の変化に対応できる間取りのフレキシビリティと気候風土の違いを考慮した多様な外部デザインの設計を行います。木材は県産の杉を使い、外壁は杉板張りを基本としますが、要望によってはメンテナンスの楽な鋼板を使うなど景観や地域性、価値観を尊重します。

主に活用している地域材について

地域材の名称	福島県産材
樹種	杉、アカマツ
産地	福島県
認証制度等	福島県産材証明
主に取扱う材種	無垢材、集成材
主に取扱う部材	
自由記入欄	県のフォレストパークのコテージ全面に会津産のカラ松を使い、会津坂下町統合幼稚園に地場の杉をふんだんに使用した。

性能・仕様および施工方法等に関する特徴

■ 快適性・省エネ性

コアを囲むフリースペースはすべてが外気に面するため採光や通風に優れています。区画されたコアは効率よく換気ができ、高い天井は夏の屋根からの熱気をやわらげるとともにトップライトからは効率よく熱気を抜くことができます。冬は天井付近にたまった暖気をダクトファンで床下に戻して、ぬくもりのある床面にします。パッシブな発想+ローテクな手法によってローコストながら快適性を追及します。

■ シンプルな架構と平面

四周の外壁とセンターコアの四隅の柱によるシンプルな架構で屋根を支えており、入れ子状になった二重の箱は構造安定性に優れています。柱、梁は4mの経済的な一般流通材を使いコスト縮減、効率的な施工を目指します。正方形の平面は最小の外壁長さで床面積を確保できる理想的な図形。コアの規格化と水回り空間のコンパクト化によって設備に関わる資材調達、施工の効率を上げ、安定的な供給と合理性によるコスト縮減、さらにはメンテナンスのしやすさも特徴の一つです。

■ 地域性・コミュニティについて

震災以前のコミュニティの維持や新たなコミュニティの形成は孤独死を防ぎ、復興の推進力を持続するためのまさに人と地域の「命をつなぎとめる」とも重要な要素となります。震災を教訓に地域コミュニティの重要性を再認識し、相互扶助、共生を考えたコミュニティ計画を積極的に提案していきます。



外観のイメージ



内観のイメージ

主な仕様

屋 根：カラーガルバリウム鋼板 立ハゼ葺
 外 壁：杉板下見貼り t=15 木材保護剤塗布
 内 装：[天井]木軸組みあらわし、PB t=9.5 EP2
 [壁]杉板 t=12、PB t=12.5 EP2
 [床]杉板 t=15 オイル仕上
 基 礎：ベタ基礎
 断 熱：次世代省エネ基準準拠
 鋼製建具：アルミ樹脂複合断熱サッシ+ペアガラス

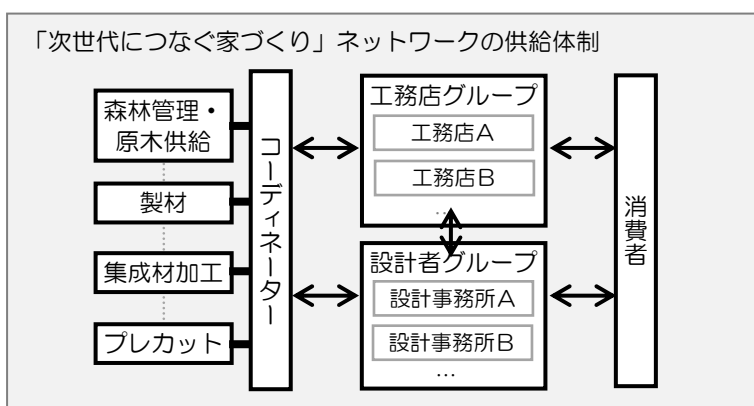
地域住宅生産者グループ

「次世代につなぐ家づくり」ネットワーク

地域型復興住宅の生産供給や流通資材の調達に関する体制

■福島県内業者による材料供給

・木の伐採から乾燥、製材、加工までを地元でできる仕組みをつくり、公共建築物利用促進法とあわせて住宅建築における木造化を確固たるものにする事で、県内の「木」に関わる人々の生活を支えます。地域材の調達に関しては福島県森林組合連合会との連携により、県内全域にわたる地域材の安定的な供給体制を整備しています。私たちは日本の木文化を現代の目で再評価し、木を適材適所で活用することがひいてはグローバル化によって地域が消えてしまわないためにも必要であると考えています。



施主からの相談体制および維持管理（アフターサービス）の体制・取組み

■相談への対応

・被災者が相談しやすく、そしてすぐに現地を確認することができるようにネットワークが持つ県内の広域な活動エリアそれぞれにおいて相談を受けることができるようにします。広範囲の連携体制をとって多分野を網羅する事で、計画から竣工さらに竣工後のメンテナンスまで、さまざまな相談に対応していきます。また、被災者を取巻くさまざまな状況に応じた資金計画、税金や保険、登記などの各種必要手続きについて経験豊富な専門家が相談に応じます。相談への対応窓口として代表会社から専任の営業担当者を設け、電話や直接訪問し、対応していきます。

■維持管理

・今回の住宅はある意味では未完の部分を用意しており、基本的なベースは今回の施工によるものとしても、その後に発生するであろう建具やパネルによる間仕切り設置や改築には、生産供給に関わった設計者、施工者が責任をもって対応する必要があります。活動地域に挙げたエリアに合わせて地元メンバーによる施工チームを構成する事で、竣工後そして団体解散後も地元で仕事を続けていく業者によって、メンテナンスや増改築の要求にもきめ細やかに対応していくことができます。